

THE RECORD

RIAJ 社団法人 日本レコード協会

平成7年12月1日発行

RECORDING INDUSTRY ASSOCIATION OF JAPAN

〒104 東京都中央区銀座7-16-3 Tel (3541) 4411 (代)

平成7年12月号 No. 433



11月上旬、当協会の招聘により、RIAAのバーマン会長及び、IFPIのガーンネット事務総長が来日しました。
11月1日には、当協会会議室に於いて、当面する重要課題に関して、会長、副会長及び、関連問題担当理事との間でトップミーティングを行いました。また、同日夜には場所を銀座キャピトルホテルに移して文化庁、通産省、関連団体、マスコミ関係者、及び会員社の代表者の方々による歓迎レセプションを開催し、懇

RIAA、バーマン会長 IFPI、ガーンネット事務総長来日

親の場を持ちました。

翌11月2日には、アメリカ大使館文化庁、通産省、外務省を訪問し、レコード業界が直面する問題についての情報交換を行いました。

ヘトップ・ミーティング

当面する重要課題ということにテーマを絞り

1 デジタル化／ネットワーク化時代におけるレコード製作者の権益確保について

2 日本における輸入権について

3 日本における洋盤保護期間の遡及について

の3つのテーマについて意見を交換しました。

テーマの1に関しては、バーマン会長より、アメリカで成立の「デジタル演奏権法案」について、オンデマンド等、デジタルの双方向サービスに関してのみレコード製作者の排他的権利を認めたもので、RIAAとしては、決して満足はしていないが、今回の法案成立は出発点であると考え、今後も権益拡充に努力したいとの説明がありました。



また、テーマの2に関しては、IFPI、RIAAとも世界的な著作権問題の重要課題として輸入権の問題をとらえており、日本における輸入権の獲得についても今後も世界的なハーモナイゼーションということから協力していくことが確認されました。

また、テーマの3に関しては、RIAAとしては今後も日本における洋盤保護の徹底のために積極的な活動してゆくとの報告がなされました。

全体を通じて、限られた時間の中で非常に密度の濃い情報交換がなされ、当協会の今後の活動の指針となるような情報もあり、貴重な2日間となりました。

IFPI理事会開催される

11月9日 ベルギー／ブリュセル

事務局報告

事務局からの報告で目立ったものは、中国事情と並行輸入問題でした。

〔中国事情〕

CD-ROM、ビデオCDの海賊版が製造され、香港等に輸出されており、大きな問題になってきています。同国のCD海賊版事情はあまり改善されていないため、その対策として、全てのCD工場に対し、

- ①SID（製造工場識別）コードの記録、②国家版權局によるタイトル未確認のCDのプレス受注の禁止
- ③プレス工場、卸、小売店等あらゆるレベルでの海賊防止のための執行手段の導入

等の手段が検討されています。この中で、①及び②は既に実施されていることが報告されました。

〔並行輸入問題〕

経済事情の異なる国からのレコードの輸入によって、輸入国のレコード製作者が損害を受けることに対し、途上国、日本、EUの状況、及びWIPOの動きが報告された後、世界的レベルで輸入権が導入される必要性が確認され、以下の行動目標が採択されました。

- ①レコード製作者のための効果的な

輸入権の国際標準として導入

②輸入権の日本での確立と、全世界の主要市場への導入

- ③EU域内の国相互間における製作者の同意のない輸入に対する輸入国の製作者の禁止権の行使

機構問題

IFPIの機構については、新しく地域理事会が設置されたことから、従来「理事会」と呼ばれていた機関を「本部理事会」と改称することに、来年4月の総会に諮って承認を得ることが確認されました。

本部理事会の構成メンバーのうち、インターナショナル・メジャー・レーベル以外の理事（独立系レーベルの代表）は今年春に行われた臨時総会で選出されたため、来春の理事会までの1年間の任期であるところ、一九九八年春までの3年間の任期とすることを来年春の総会で承認を受けることとされました。

アメリカ、デジタル演奏権法案に大統領署名

デジタル方式のオン・デマンド・サービス等を対象として、レコード製作者に排他的演奏権を認める法案は、11月初めに大統領の署名が済み、

法律として成立しました。

この法律は、送信に関する一定の範囲の排他的権利をレコード製作者に与えるものとして評価されていますが、非常に限定された範囲の権利であるため、アメリカのホワイト・ペーパーも、権利の範囲が限定されていることを指摘しています。

RIAAは、「この法律は最終的な目標の達成ではなく、将来のデジタル化時代に向けての、国際的権利獲得の第一歩と評価し、ホワイト・ペーパーの中で、レコード製作者の演奏権と頒布権に対する排他的権利が認められたことを評価したい」とコメントしています。

IFPIアジア・太平洋地域理事会開かれる

去る11月20日、香港・ハイアットリージェンシーホテルに於いて、第3回IFPIアジア・太平洋地域理事会が開催され、当協会から、松尾会長代理として、千葉事務局長が出席しました。

会議では、アジア地域の各国の最近の状況の報告と、最重要課題として海賊版対策が話しあわれましたが、「ブートレック」（無許可録音）ものが、TRIPSの発効を目前にして改善の方向に進んでいるのに対し、一向に減らない中国製の海賊版CD

が各国のマーケットを与えている深刻な状況について生々しい報告がなされました。

中国製海賊版CDは、オーディオCDに限らず、ビデオCD、CD-ROMについても大量に出回っているとのことで、改めて、各国のナショナルグループが協力してこの問題に取り組むことが確認されました。

著作権・著作隣接権に関する特別研修への協力

社団法人著作権情報センターでは、アジア地域の著作権制度普及促進事業の一環として、「著作権・著作隣接権に関する特別研修」を実施していますが、当協会では、去る11月21日、レコード製作者の権利とその権利行使方法、課題等について講義を行ったほか、コンピュータ・グラフィックスのスタジオ見学等を通じて、フィリピン、韓国、タイ、ベトナムからの4名の研修生に対する特別研修に協力しました。

今回の研修では、放送、貸レコード等、権利の集中処理の実務に対する関心が高く、実際の徴収・分配に関する質疑応答が行われました。

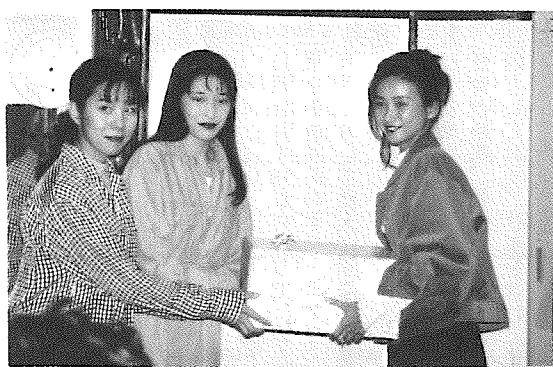
また、海賊版問題やデジタル化時代に向けてのレコード製作者の国際的な取り組みにも関心が示され、意見交換が行われました。

全国福祉・更生施設へのレコード寄贈

当協会は、今年も、全国の福祉・更生施設へレコード（CD、カセット）を寄贈しました。

この事業は、全国の福祉・更生施設の皆様に、より広く、多くの音楽を聴いていただき、生活に潤いをもたせていただくことを願い、昭和38年から毎年続けている事業で、今年で33回目となります。

寄贈は、全国五〇〇か所の児童保



育施設、心身障害者、老人ホーム等の福祉・更生施設に対して行われ、レコード会社の本社、営業所、支店所在地のうち1か所（今年は、札幌市、宮城県、石川県、埼玉県、東京都、神奈川県、愛知県、神戸市、広島県、香川県、福岡県の代表施設）へは、各地区のメーカー会と日本レコード商業組合各支部の協力で直接訪問して寄贈、その他の施設については、（財）日本民生文化協会を通じて行いました。

また、東京地区では、11月2日に、荒川区の更生施設、荒川ひまわり作業所を訪問して実施しました。当日は、マーキュリー・ミュージックエンタテインメント専属の本田美奈子さんが、東京十日会（メーカー会）、日本レコード商業組合東京支部、当協会の関係者と共に訪問し、代表の方に、CD・音楽テープを手渡ししました。

なお、寄贈の地域別施設数は、以下のとおりです。

北海道10、東北70、北関東60、東京40、南関東13、中部25、北陸25、近畿97、四国20、中国58、九州80、沖縄2。

当協会白田氏、工業標準化功労者受賞

当協会白田元大氏が、平成7年度の工業標準化功労者（関東通商産業局）を受賞、授賞式が11月14日に東京都千代田区大手町のJAホールで行われました。

白田氏は、長年、日本工業標準調査会の専門委員・臨時委員を担当、JIS規格14本を作成するなど、業界の標準化、品質管理に貢献してきました。

なお、過去には、昭和61年度工業標準化功労者として、東芝EMIの十合敏一氏が受賞されています。



Q盤ウィンターキャンペーン好評実施中！

年末の需要期に向けて、今年度も「Q盤ウィンターキャンペーン」が始まりました。

Q盤全二、〇五二タイトルを網羅した『Q盤大辞典』の改訂版の販売店へのお届けも11月中に完了し、現在、各販売店では、積極的なキャンペーン展開が行われています。

また、広告宣伝についても、朝日新聞

朝刊（東京・大阪）全15段
夕刊（東京・大阪）全5段

北海道新聞朝刊（北海道）

河北新報朝刊（東北）

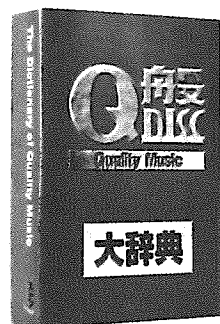
東京新聞朝刊（東京）

中日新聞朝刊（中部）

中国新聞朝刊（中国）

西日本新聞朝刊（九州）

が12月上旬の掲載を決定しており、今後、最需期に向け、キャンペーン展開はピークを迎えます。



アジア・ミュージックフェスティバル・

イン・トウキョウ'95開催!

（勸音楽産業・文化振興財団主催、通産省・文化庁、日本自転車振興会後援の「アジア・ミュージックフェスティバル・イン・トウキョウ'95」が、11月16日・18日の3日間にわたり、東京都渋谷区のオン・エアー・イーストにおいて盛大に開催されました。

今年で4回目となる本フェスティバルは、音楽によるアジア地域の交流、音楽の振興、著作権思想の普及を目的としており、日本を含むアジ



ア各国の一流アーティストの競演で、連日熱気にあふれたステージを繰り広げ、満員の音楽ファンを魅了していました。

なお、各公演の出演アーティスト（出演順）と入場者数は以下のとおりです。

11月16日（木）〔Sampling Night〕

B☆KOOOL、IWAARK、EAST

TEND×YURI

入場者七〇〇名

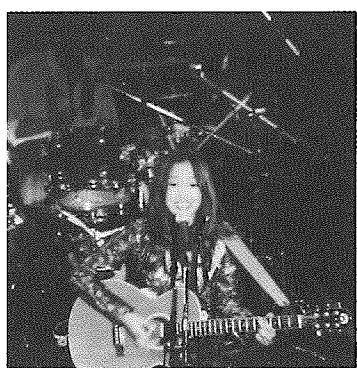
11月17日（金）〔Dynamite Night〕

NAKARIN、シャ乱Q

入場者一、〇〇〇名

11月18日（土）〔Lyrical Song Night〕

艾敬、佐藤聖子



入場者六〇〇名

なお、このアジア・ミュージックフェスティバル・イン・トウキョウ'95は、日本自転車振興会より「競輪公益資金」の補助を受けて開催されました。

■社長交替について

当協会会員社の（株）イーストウエスト・ジャパンと、（株）ワーナーミュージック・ジャパンにおいて、以下のように社長の交替がありましたのでお知らせします。（敬称略）

記

●（株）イーストウエスト・ジャパン

（11月21日付）

退任：上出 卓（同日付で同社非常

勤取締役）

なお、社長職には、小杉理宇造ワ

ーナーミュージック・ジャパン代表

取締役会長が兼務されます。

●（株）ワーナーミュージック・ジャパ

ン（12月11日付）

新任：恒川光昭

（前（株）日音専務取締役）

退任：小杉理宇造

なお、小杉氏は、代表取締役会長

職に専念されます。

■JASRAC理事改選

（注）日本音楽著作権協会は、11月8

日に理事会、臨時評議員会を開催、理事長以下、常務理事、常務監事他を選出しました。以下が、当日決定した新執行体制です。（敬称略）

理事長 加戸守行

（新任、元文部省教育助成局長）

常務理事 加藤英夫（留任）

木村 豊

（新任、前山口大学事務局長）

常勤理事 遠藤紀世志（留任）

押田 良信（"）

黒川 靖司（"）

佐藤 君夫（"）

中村 凱夫（"）

常勤監事 宮澤 溥明（留任）

（退任） 北田 敏夫（常務理事）

青木 重之（"）

山上 路夫（"）

なお、10月2日に開催された臨時

評議員会において会長、理事など選

挙が行われ、その結果新会長には、

遠藤英氏が就任されています。

■日本レコード普及（株）の移転

日本レコード普及株式会社は、以

下の住所に移転し、11月6日（月）

より業務を開始しております。

記

〒104 中央区築地2-8-9

TEL 03-3542-4181

FAX 03-3542-4186

日本レコード協会ヒットチャートデータによるランキング

平成7年10月度(9月21日~10月20日)のヒットチャートデータがまとまりました。これによる各ランクの5位までは次のとおりです。

順位	タイトル	アーティスト	発売元
■邦楽・洋楽合同シングル 5 位			
1.	LOVE PHANTOM	B'z	(BM)
2.	Message	福山雅治	(BV)
3.	Joy to the love (globe)	globe	(AV)
4.	Hello, Again ~昔からある場所~	MY LITTLE LOVER	(TF)
5.	スリル	布袋寅泰	(TO)
■洋楽シングル 5 位			
1.	ファンタジー	マライア・キャリー	(SME)
2.	恋人たちのクリスマス	マライア・キャリー	(SME)
3.	レディ・ラック	ロッド・スチュアート	(WJ)
4.	ライスラ・ボニータ	マドンナ	(WJ)
5.	シャイ・ガイ	ダイアナ・キング	(SME)
■邦楽・洋楽合同アルバム 5 位			
1.	デイドリーム	マライア・キャリー	(SME)
2.	ハチミツ	スピッツ	(PO)
3.	DANCE TRACKS VOL. 1	安室奈美恵	(TO)
4.	FIELD OF VIEW I	FIELD OF VIEW	(ZA)
5.	graffiti	中西圭三	(PI)
■クラシックアルバム 5 位			
1.	アダージェ・カラヤン	ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮 /ウィーンP.O	(PO)
2.	ヴィヴァルディ：四季	イ・ムジチ (Ens)	(MME)
3.	ドヴォルザーク： 交響曲第9番「新世界より」他	カラヤン指揮/ベルリン・フィル	(PO)
4.	「幻想即興曲」/ ショパン・ピアノ名曲集	ブーニン、アルゲリッチ、 ルイサダ他	(PO)
5.	「アルビノーニのアダージェ」/ ヨーロッパのバロック音楽	ハウムガルトナー指揮/ ルツェルン祝祭管	(PO)
■洋楽アルバム 5 位			
1.	デイドリーム	マライア・キャリー	(SME)
2.	シャンブー・オア・ナッシング	シャンブー	(TO)
3.	スキヤットマンズ・ワールド	スキヤットマン・ジョン	(BV)
4.	デザイン・オブ・ア・ディケイド/ ジャネット・ジャクソン・ グレイテスト・ヒッツ	ジャネット・ジャクソン	(PO)
5.	リミックス・コレクション	ボーイズ・II・メン	(PO)

※ 日本コロムビア(C)/ビクターエンタテインメント(V)/キングレコード(K)/テイチク(TE)/ポリドール(PO)/東芝EMI(TO)/日本クラウン(CR)/徳間ジャパン(TJC)/ソニー・ミュージックエンターテインメント(SME)/マーキュリー・ミュージックエンタテインメント(MME)/ポニーキャニオン(PC)/ワーナーミュージック・ジャパン(WJ)/アポロン(AP)/フォーライフレコード(FL)/バップ(VAP)/トランスレコード(TA)/ポリスター(PS)/アルファレコード(AL)/キティエンタープライズ(KT)/ファンハウス(FUN)/イーストウエスト・ジャパン(EW)/BMGビクター(BV)/NECアベニュー(NA)/WEAミュージック(WEA)/メルタック(ME)/ハミングバード(HB)/TDCコア(TDC)/メディアレモラス(MR)/AXEC(AX)/トイズ・ファクトリー・レコード(TF)/バンダイ(BD)/パイオニアLDC(PI)/MCAビクター(MV)/ロッキットレコード(RO)/エイベックス・ディー・ディー(AV)/ピージョン(BJ)/ソフティンレコード(ZA)/ルームスレコード(BM)/ビークラム(BG)/ワン・アップ・ミュージック(EP)

10月度「ゴールド・アルバム」他認定作品

10月度のゴールド・アルバム他が次のとおり認定されました。

■アルバム(24作品)

- **ミリオン**
デイドリーム/マライア・キャリー (SME)
クロス・ロード~ベスト・オブ・ボン・ジョヴィー
/ボン・ジョヴィ (MME)
- **トリプル・プラチナ**
スキヤットマンズ・ワールド
/スキヤットマン・ジョン (BV)
- **ダブル・プラチナ**
ハチミツ/スピッツ (PO)
- **プラチナ**
DANCE TRACKS VOL. 1
/安室奈美恵 (TO)
FIELD OF VIEW I
/FIELD OF VIEW (ZA)
シャンブー・オア・ナッシング/シャンブー (TO)
ディズニースーパー・ベスト
/オムニバス (PC)
セブンス・サイン
/イングヴェイ・マルムスティーン (PC)
- **ゴールド**
MARTINI II/鈴木雅之 (SME)
10 WINGS/中島みゆき (PC)
GO TO THE TOP/hitomi (AV)
graffiti/中西圭三 (PI)
グレイテスト・ヒッツ/デフ・レバード (MME)
スキヤットマン/スキヤットマン・ジョン (BV)
ミッキーマニア (PC)
ワン・ホット・ミニット
/レッド・ホット・チリ・ペッパーズ (WJ)
イメージズ・アンド・ワーズ
/ドリーム・シアター (EW)
パール/ジャニス・ジョプリン (SME)
アウェイク/ドリーム・シアター (EW)
デザイン・オブ・ア・ディケイド
/ジャネット・ジャクソン (PO)
リミックス・コレクション
/ボーイズ・II・メン (PO)
アダージェ・カラヤン/ヘルベルト・フォン・
カラヤン指揮/ウィーン・フィル (PO)
ハイパービート!/ダルファー (TO)

■シングル(19作品)

- **2ミリオン**
LOVE LOVE LOVE/嵐が来る
/Dreams Come True (SME)
- **トリプル・プラチナ**
LOVE PHANTOM/B'z (BM)
Hello, Again~昔からある場所~
/MY LITTLE LOVER (TF)
ロビンソン/スピッツ (PO)
- **ミリオン**
突然/FIELD OF VIEW (ZA)
- **ダブル・プラチナ**
涙がキラリ☆/スピッツ (PO)
- **プラチナ**
Message/福山雅治 (BV)
白いカイト/MY LITTLE LOVER (TF)
スリル/布袋寅泰 (TO)
Joy to the love(globe)/globe (AV)
- **ゴールド**
友よ/長瀬剛 (TO)
BYE/L→R (PC)
ドキドキ/JUDY AND MARY (SME)
夏色の「永遠」/瀬戸朝香 (PC)
I BELIEVE/華原朋美 (PI)
休みの午後/森高千里 (EP)
TO LOVE YOU MORE/セリヌ・
ティオンwithクライズラー&カンパニ (SME)
レディ・ラック/ロッド・スチュアート (WJ)
ライスラ・ボニータ/マドンナ (WJ)

世界の話題

■デジタル時代の著作権管理

デジタル時代への変化は、レコード使用の管理と監視のための法的、技術的方法の確立を、レコード業界に迫っています。

法律改正は、国内・国際レベルで続いており、著作権保護の技術的手段の模索が続いています。

＜集中管理団体の役割＞

管理団体は、無許諾使用をなくし、正確な支払いがなされるように、レコードの使用を監視する役割を担い続けることは明かです。変革が必要とされるのは、団体の伝統的な役割の実行方法です。

例えば、現行の分配システムは不完全ですが、現状では最良と認識されています。レコード会社と徴収団体間、使用者と徴収団体間の電子的なデータ交換により、分配方法の改善は可能であり、必ずや改善されるでしょう。管理団体の中には、このための対策を検討し始めているところもあります。

＜ISRCとは＞

デジタル時代における情報管理の方法として、国際標準録音コード(ISRC)の利用が可能です。

ISRCは、レコードの出所証明で、国際標準化機関(ISO)が認定しています。個々のCDに12桁のアルファベット/数字のコードをつけ、CDが存在する期間中、出所が確認できます。

IFPIは、ISRCの完全実施を推

奨し、最終的には、ISRCによる著作権管理を目標としています。

＜将来＞

新メディアと新技術は常に開発され、レコード業界にとって、この発展に対応し、できるだけ早期に権利管理の基盤を作ることが必要不可欠です。IFPIは、行動計画を今年9月に作成し、徴収団体にもISRCの重要な役割を認識してもらうことができました。

IFPIは、12月、第1回ISRC国際作業部会を開催し、世界的にISRCを機能させるための現実的な対応を検討します。

■情報化社会における著作権

—EU、著作権関係問題を検討—
将来の法律的課題への準備のため、欧州委員会(EC)は、「情報化社会における著作権及び関連する権利のグリーン・ペーパー」を7月に発行しましたが、これは、情報化の進展に伴い、政策決定のために検討が必要とされる多くの問題を取り上げたものです。

グリーン・ペーパーは、権利管理と技術的手段、権利消尽、並行輸入、複製とデジタル配信権、公衆への伝達とデジタル放送権、人格権等への適用問題を扱っています。また、ECは、全ての関係機関に、この問題に対する意見を今年10月末までに提出することを呼び掛けました。

IFPIは、この問題に対する書面

を用意し、グリーン・ペーパーの担当者と意見交換を2回行ないました。協議の焦点となったのは、デジタル・ネットワーク環境における適用法の定義、私的複製、作品の異なる形でのデジタル拡散、権利管理の性格の変化、著作権保護の技術的手段等です

グリーン・ペーパーは、レコード製作者に対して、例外の数を制限し、多くの排他的権利を認め、既存の権利の範囲を拡大しています。

ECは、情報化社会における著作権及び関連する権利の分野における将来の法的イニシアチブを策定するためのホワイト・ペーパーの起案に、IFPIの議論への参加を呼び掛けました。

■イタリアにおける法律改正

今年6月、保護期間に関する命令が発効し、著作権の保護期間は50年から70年に、実演家、放送事業者、映画の最初の固定者の保護は20年から50年に延長されました。レコードは、以前は、寄託から30年、或いは、オリジナル盤の作成から40年の保護期間でしたが、50年の保護期間を享受することができるようになりました。

しかし、その実効性を維持するため、命令から法律への転換が必要とされています。

(IFPIフォー・ザ・レコード

'95/10)

会議メモ (主なもの)

(11月1日～11月30日)

- 11・6 技術部会
- 11・7 ISRCDBプロジェクト
- 11・8 著作権部会
- 11・8 JASRAC委員会

- 11・10 JASRAC委員会
- 11・10 レコード制作基準倫理委員会
- 11・10 調査統計部会
- 11・13 GD幹事会・演出部会合同会議
- 11・15 業務委員会
- 11・16 JASRAC委員会

- 11・16 洋楽企画専門部会
- 11・17～18 営業部会
- 11・17～18 ビデオ部会
- 11・22 洋楽宣伝専門部会
- 11・24 理事会
- 11・24 Q盤プロジェクト
- 11・27～28 情報システム部会
- 11・30 GD10周年プロジェクト

1995年10月レコード生産実績

数量：千枚・巻

単位

金額：百 万 円

表1. オーディオディスク

		10 月 実 績						1995 年 (1 月 ~ 10 月) 累 計					
		数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比	数 量	構成比	前 年 同期比	金 額	構成比	前 年 同期比
C	邦洋計	19,487	43	153	12,468	23	152	135,048	39	123	84,499	20	119
	邦洋計	497	1	138	242	0	126	2,797	1	120	1,234	0	96
	邦洋計	19,984	44	152	12,710	24	152	137,845	40	123	85,733	20	119
D	邦洋計	13,084	29	89	22,138	42	85	127,073	37	105	217,777	51	102
	邦洋計	12,390	27	111	18,403	35	107	81,729	24	117	121,743	29	114
	邦洋計	25,474	56	99	40,541	76	94	208,802	60	109	339,521	80	106
A	邦洋計	32,571	72	119	34,607	65	101	262,121	76	113	302,276	71	106
	邦洋計	12,888	28	112	18,645	35	107	84,526	24	117	122,977	29	114
	邦洋計	45,458	100	117	53,251	100	103	346,647	100	114	425,253	100	108
A	邦洋計	19	0	113	25	0	110	232	0	116	320	0	107
	邦洋計	11	0	32	17	0	23	142	0	57	276	0	59
	邦洋計	30	0	59	42	0	44	373	0	83	596	0	78
合 計	邦洋計	32,590	72	119	34,632	65	101	262,353	76	113	302,596	71	106
	邦洋計	12,899	28	112	18,662	35	107	84,667	24	117	123,253	29	114
	邦洋計	45,489	100	117	53,293	100	103	347,020	100	114	425,849	100	108

表2. オーディオテープ

		10 月 実 績						1995 年 (1 月 ~ 10 月) 累 計					
		数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比	数 量	構成比	前 年 同期比	金 額	構成比	前 年 同期比
カセット	邦洋計	2,524	98	95	2,483	99	93	20,137	99	85	17,357	99	85
	邦洋計	39	2	72	35	1	59	237	1	71	251	1	65
	邦洋計	2,563	100	94	2,518	100	92	20,374	100	84	17,608	100	85
カートリッジ	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	邦洋計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	邦洋計	2,524	98	95	2,483	99	93	20,137	99	85	17,357	99	85
	邦洋計	39	2	72	35	1	59	237	1	71	251	1	65
	邦洋計	2,563	100	94	2,518	100	92	20,374	100	84	17,608	100	85

表3. 複合型CD (CDグラフィックス、CD-I、CD-ROMなど)

		10 月 実 績						1995 年 (1 月 ~ 10 月) 累 計					
		数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比	数 量	構成比	前 年 同期比	金 額	構成比	前 年 同期比
邦 盤	邦洋計	4,942	100	170	2,235	100	94	40,011	100	212	17,390	98	99
	邦洋計	9	0	—	6	0	—	166	0	394	290	2	403
	邦洋計	4,951	100	171	2,241	100	94	40,177	100	212	17,681	100	100

表4. ビデオレコード

		10 月 実 績						1995 年 (1 月 ~ 10 月) 累 計					
		数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比	数 量	構成比	前 年 同期比	金 額	構成比	前 年 同期比
ディスク	邦洋計	1,390	44	91	3,860	37	85	11,987	38	88	34,810	34	84
	邦洋計	1,738	56	75	6,700	63	70	19,339	62	125	67,357	66	109
	邦洋計	3,127	100	81	10,559	100	75	31,326	100	108	102,167	100	99

表5. オーディオ/ビデオ/AV複合型レコード合計

		10 月 実 績						1995 年 (1 月 ~ 10 月) 累 計					
		数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比	数 量	構成比	前 年 同期比	金 額	構成比	前 年 同期比
オーディオ	邦洋計	48,051	86	115	55,812	81	103	367,395	84	112	443,457	79	107
	邦洋計	4,951	9	171	2,241	3	94	40,177	9	212	17,681	3	100
	邦洋計	3,127	6	81	10,559	15	75	31,326	7	108	102,167	18	99
複合型CD	邦洋計	4,951	9	171	2,241	3	94	40,177	9	212	17,681	3	100
	邦洋計	3,127	6	81	10,559	15	75	31,326	7	108	102,167	18	99
	邦洋計	56,130	100	116	68,612	100	97	438,897	100	117	563,304	100	105

備考 1. 本年実績は、会員会社「30社」の集計である。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

A.V. レコード及びblankテープ購入状況

本号は、本年5月に実施されたJNNデータバンク調査のデータを基に、オーディオ/ビデオレコードとblankテープの購入状況を図と表によって紹介します。

図 種類別購入者率

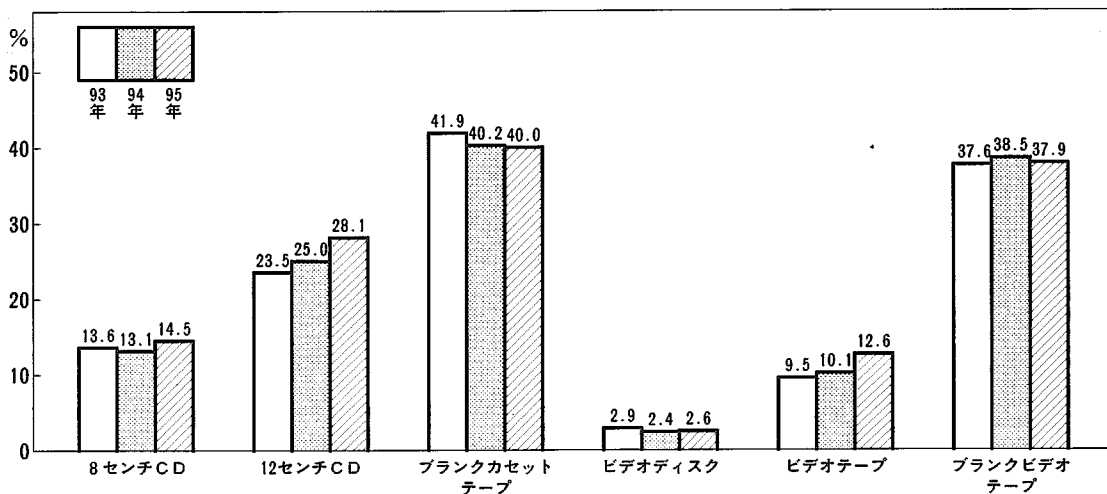


表 種類別・年代別購入者率 (1994年/1995年)

単位: %

		コンパクトディスク				blank		ビデオレコード				blank	
		8センチ		12センチ		カセットテープ		ディスク		テープ		ビデオテープ	
		1994年	1995年	1994年	1995年	1994年	1995年	1994年	1995年	1994年	1995年	1994年	1995年
男	10代	33.6	41.5	45.6	54.8	56.8	60.6	2.7	4.6	12.7	13.7	32.0	37.8
	20代	16.0	22.1	48.6	58.6	58.9	57.2	5.1	5.2	10.6	21.6	46.2	46.8
	30代	9.2	9.4	29.8	31.6	39.7	39.4	4.0	2.9	15.1	17.6	51.7	50.8
	40代	8.5	10.5	18.9	18.6	31.8	26.6	1.4	1.7	9.0	8.9	44.2	41.0
	50代	2.3	4.2	7.5	11.9	23.0	24.6	1.1	1.8	4.9	8.4	27.5	30.2
	60代	3.1	2.1	8.4	6.8	27.7	24.2	3.7	1.6	5.8	8.4	28.8	28.4
	男性全体	12.3	15.0	27.8	31.6	40.4	39.1	3.0	3.0	10.0	13.5	39.9	40.3
女	10代	37.1	41.6	46.6	42.0	66.1	72.0	1.2	4.3	15.5	12.1	33.1	38.9
	20代	16.4	17.2	39.4	49.4	56.9	59.0	3.1	2.8	15.6	18.4	44.7	39.5
	30代	14.5	13.7	17.7	23.6	36.8	39.3	2.0	1.7	12.8	20.2	47.6	51.0
	40代	9.9	7.8	15.9	12.3	33.5	31.9	2.2	2.0	5.8	7.8	43.4	33.3
	50代	3.7	3.7	8.1	10.4	23.0	23.5	2.0	1.3	5.4	5.0	21.3	27.2
	60代	1.4	1.4	3.7	6.1	20.1	15.0	—	0.9	4.7	2.3	22.9	15.0
	女性全体	13.8	14.1	22.4	24.8	39.9	40.9	1.9	2.2	10.2	11.7	37.1	35.6
全体		13.1	14.5	25.0	28.1	40.2	40.0	2.4	2.6	10.1	12.6	38.5	37.9

(注) 購入者率は、各年とも5月の調査時点から遡った6ヶ月間にレコードを購入した人の割合。